

<ワン・ポイント・レクチャー> “いのち”を紡ぐコース

第2回: 認知症を理解し、関係を“紡ぐ”対応が出来るようになるためのポイント

認知症になると、新しく体験したことを丸ごと忘れてしまいます。しかも、忘れていること自体も気づいていません。この、忘れていること自体も気づいていないって、ご存知でしたか？

また、気を付けたいことは、“認知症”という診断がついたからと言って、認知症の方すべてが同じようになるとは思わないでください。軽度の方から重度の方まで幅がありますし、忘れる程度にも症状の出方も一人ひとり異なりますので、そのことを十分に認識した上で“個別化”した対応をすべきなんです。さらに気を付けていただきたいことは、私たちと同様に認知症の方にもプライドがありますし、感情がありますので、通常の間人間関係と同様に、プライドを傷つけるような言動や馬鹿にした対応、感情をぶつけるなんてことをするのは、絶対に止めてくださいね。それは、体験したことは丸ごと忘れませんが、沸き起こった感情はいつまでも忘れないため、あなたがとった対応に対して抱いた感情、特に否定的な感情はいつまでも持ち続けることになります。もしそのような対応が繰り返されると、あなたと関わることはもとよりその環境に居ること自体に不安や恐怖心を持ち続けることになり、逃げだしたくなります。場合によっては、徘徊を繰り返し、行方不明になったりという事態を招きかねません。

でも、これって、健常者と言われている人たちでも、相手に対して抱いた感情、特に否定的な感情なんていつまでも持ち続けてしまうのと、少しも変わりませんね。そうなんです、他の病気に罹っておられる方と同様に認知症の方に対しても、認知症という病気にかかっておられる一人の“人”として関わるのが正しい関わり方なんです。

その特性を理解した上で提唱されているケアの方法が、フランス発祥の“ユマニチュード”(ヒューマン:人間)です。そのポイントは、「眼を見て話す」、「必ず前から話しかける」、「身体の一部を触れる」、「体を支えながら、立つことが出来るように支援する」というものです。“人”が生活場面で必ず行っていることを取り入れているだけのものなんです、生活場面はもとより施設でも、特に認知症の方に対して、なかなか行われていないのが現状です。ちなみに、実施する際の注意点を一つ。前の三つは一人で十分に出来ることですが、最後の一つについては、転倒すると大ごとですので、必ず複数の人の力でもって行うようにしてくださいね。